

温暖化防止

ストリート

街角

道



第18号
2006.3.1

「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

目次

- ・用語解説「温暖化対策に関する地域の計画」…… P.1
- ・団体紹介「日本科学者会議(JSA)」…P.2
- ・温暖化Q&A・こんなことできる……P.3
- ・審議会ウォッチ・本の紹介・ボランティアの声…… P.4

気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

地球温暖化に関する用語解説

地方自治体の地球温暖化対策 実行計画と地域推進計画

地域の温暖化対策に関係する計画として、実行計画と地域推進計画があります。ともに「地球温暖化対策推進法」により地方自治体で策定する計画と位置付けられています。

どちらも地域の温暖化対策を進める計画ですが、主な違いは2点あります。実行計画は地方公共団体の直接的な事務・事業を対象にしています。例えば、市役所や公共の学校・病院等での温暖化対策に関する計画です。地域推進計画は地方公共団体の行政区域内における全ての人為的な活動に伴う温室効果ガスの排出抑制を目的としています。

また、法律において実行計画は「策定するもの」として義務づけられているのに対して、地域推進計画の策定は「努めるもの」として努力義務となっています。

実行計画は47都道府県、890市町村で、地域推進計画は44都道府県、56市町村で策定されています（2005年4月時点）。今後、これらの計画は、地域の温暖化対策促進の基盤ともなることが期待されます。実効性のある計画が市民参加のもとで策定されることが求められています。

(関連記事：気候ネットワーク通信47号4頁)

「日本科学者会議（JSA）」の紹介です。大見興一さんから紹介いただきました。



大見 興一さん

日本科学者会議（JSA）は、1965年末に発足しました。

当時ベトナム戦争がたけなわでしたので、戦争などに科学が利用され、人類の幸せとは逆の方向に、「発展」していることを残念に思う人が多くいました。その20年前には、科学が完全に戦争協力体制に組み込まれていたため、その悲惨な状況を体験した科学者も多くいました。再び日本の科学が、戦争に協力させられることのないようにとの切なる願いから、民主的な「科学の運営」を望む科学者の力を集め、人類の幸せに貢献する科学の正常な発展を期して設立されました。

そういうわけで、科学に携わる者（研究者、教育者、技術者、医師、弁護士、大学院生など）に会員資格があります。47都道府県にJSAの支部があり、研究機関・大学に分会があります。たしかに研究者中心の組織ですが、「科学にたずさわる人」は研究者だけではないと考え、広く会員を求める姿勢を持っています。

気候ネットワークとの関係に注目すると、日本科学者会議の一つの研究会である公害環境問題研究委員会が気候ネットワークに加入し、発足時から運営委員を出しています。初代の運営委員は和田武立命館大学教授でした。学生とともに、「市民が進める温暖化防止」や環境教育、市民発電などの企画の立案実施に積極的に協力しました。

JSA公害環境問題研究委員会は、年に二回の例会を持ち、研究員の発表、公害現場などの見学会を行い、日本および外国の公害問題、地球環境問題などに対する視野を広げ、知識を深めています。最近では、気候ネットワークの十八番である、気候変動の問題とか、土壌・地下水の汚染問題、廃棄物問題などに話題が集中していますが、そ

今回の団体は

気候ネットワークの団体会員の紹介です。

日本科学者会議（JSA）

他の問題も話し合っています。

例会以外の活動は出版が中心になります。1992年のリオ・サミットのころから、出版活動を強め、最近では旬報社『環境問題資料集成』（全14巻、政策資料を網羅）、実教出版『環境展望』（隔年発行、例会のテーマを反映させています）等を発行しています。依頼に答えて、各種雑誌にも環境コラムを連載しています。新たな出版企画も進行中です。

こう書いていくと、やたらに堅い団体のように見えます。しかし、・・・

最近、2005年9月11日（日）に、シンポジウム「石見銀山の世界遺産登録と地域づくり」を開催しました。その一環として12日（月）に見学会を行いました。その時の写真を見ていただければ、堅いばかりではないことをわかっていただけるでしょう。（写真撮影は2枚とも畑明郎日本環境学会会長）



石見銀山の発掘跡



町並み保存地域裁判所入り口で集合

日本科学者会議(JSA)

〒 113-0034 東京都文京区湯島1-9-15 茶州ビル9F

TEL:03-3812-1472 FAX:03-3813-2363

E-mail:mail@jsa.gr.jp URL:http://www.jsa.gr.jp/



第1回 CO2排出量把握の方法は？

第1回は国や地域の排出量把握の方法についてです。「日本のCO2排出量は90年から〇〇%増加しています」あるいは「〇〇市のCO2排出量は△△t-CO2です」などの表記を見かけますね。でもこれってどうやって量っているの？と思ったことはありませんか。

CO2の排出量は、計測器のようなもので直接量ることはできません。実際には消費された燃料から計算して間接的に求められています。CO2の排出量を量るためには、まずは排出源となっている燃料（石油製品）の消費量を把握する必要があります。一口に燃料といってもガソリン、灯油、軽油、LPGなど、様々な種類があり、それぞれに排出係数は異なり、例えばガソリン1Lと軽油1Lでは消費した際に排出されるCO2の量は異なってきます。

国や地域レベルの排出量を把握するためには、石油製品ごとの消費量を把握した上で、そこに排出係数を掛けて燃料ごとの排出量を算出し、それらを積み上げてエネルギー起源全体のCO2排出量とみなします。

国レベルでは消費量全体で捉えることができるので比較的簡単に計算することができ

ますが、市町村レベルのCO2排出量を正確に把握することは簡単ではありません。例えば、電気は電力会社の協力を得ることで地域全体の消費量を把握できますが、灯油やガソリン、軽油、LPGなどは供給元がいくつも存在しデータを集めることが難しく、さらに域外の方の購入部分も含まれるため供給量（販売量）＝市町村での消費量とは必ずしも一致しません。そこで、サンプル調査をおこない燃料ごとの家庭あたりあるいは事業所あたりの平均的な消費量を求め、その上で世帯数や事業所数または床面積数を乗じて求めることとなります。推計はあくまでも推計ですが、地域レベルのCO2排出量を把握するためには有効な方法です。

例：A市の（人口約7万人規模）CO2排出量

燃料	消費量	単位		排出係数	備考	小計
電力消費量	230,389	千kWh	×	0.378 kg-CO2/kWh	(全電源平均)	87,087 t-CO2
都市ガス	16,042	千m ³	×	2.31 kg-CO2/m ³	(地域ガス会社係数)	37,058 t-CO2
LPガス消費量	3,738	t	×	3.02 kg-CO2/kg		10,181 t-CO2
灯油消費量	4,947	kl	×	2.51 kg-CO2/l		6,821 t-CO2
A重油消費量	1,877	kl	×	2.80 kg-CO2/l		1,497 t-CO2
ガソリン消費量	5,480	kl	×	2.31 kg-CO2/l		49,637 t-CO2
軽油消費量	5,895	kl	×	2.64 kg-CO2/l		41,790 t-CO2
地域の総排出量合計						234,071 t-CO2

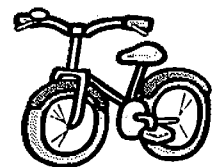
その他の排出係数については平成12年9月 環境庁温室効果ガス排出量算定方法検討会資料の値を用いた。
<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/santeiho/kento/h1209/index.html>

温暖化防止
こんなことできる！



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」でできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

今回のテーマは、 自転車利用のススメ



業務や家庭に次いで排出量の増加が著しいのが運輸部門（90年比19.8%増）です。その8割以上は自動車からの排出によって占められています。

私たちにできる運輸部門での対策として、おすすめしたいのが「自転車利用」です。普段乗り慣れていないと、その便利さや良さがわからず、つい自動車を利用してしまいます。都市部なら、自動車やバスよりも小回りがきき、より早く目的地まで移動できる場合もあります。3km程度の距離なら意外に楽に移動することができます。タイヤの空気圧を正しく保ち、サドルの位置を調整する

ことで「買い物用の自転車」でも快適に走ることができます。

これから、春になりサイクリングにも良い季節になります。大量の化石燃料を使用するレジャーでなく、環境負荷が小さく健康にもよいサイクリングを楽しんでみませんか。

ただし、排気ガスや事故などの危険もつきまといまふ。まち全体で自転車が使いやすい道路・駐輪場・レンタサイクル制度等の整備が必要です。

自転車利用者の増加と自転車優先のまちづくりが温暖化対策につながります。

「審議会ウォッチ」

気候ネットワークでは、政府の温暖化防止政策の動向を日常的にウォッチしており、その一環として各都府庁が設置した有識者らで構成される審議会を傍聴しています。主なものには環境省の中央環境審議会地球環境部会や、経済産業省の産業構造審議会環境部会地球環境小委員会などがあります。また、各審議会が報告を取りまとめる前に行う意見募集（パブリックコメント）に対しては、特定の利害関係に属さないNGOとして、

実効性のある対策などについての意見を適宜提出しています。

審議会行政については、それ自体が官僚の隠れ蓑だとの批判も強いところですが、審議会での審議が国の方針を形作るという現状では、審議会ウォッチは、政策提言や市民への情報提供を行うためにも欠かせない活動の一つとなっています。

書籍紹介

環境問題チャレンジブック5

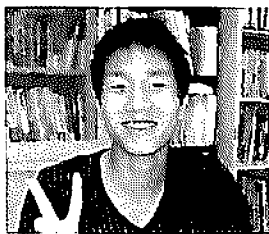
『はて・なぜ・どうして クイズ エネルギーと暮らし』

エネルギーという概念を正確に理解することは、なかなか難しいものです。それは子どもだけでなく大人にとっても同様です。そのエネルギーにまつわるさまざまな疑問を、Q&Aによるクイズ形式で分かり易く解説してくれます。内容的にも概論にとどまらず、暮らしに身近な話を多く取り入れるとともに、第3部では市民風車をはじめとする自然エネルギー・省エネルギーの取り組み事例が数多く紹介されています。



著者: 江川 多喜雄、鷹取 健
2002年10月発行、1,300円(税別)
発行: 合同出版
ISBN: 4-7726-0297-6

ボランティアの声



京都ボランティア 西脇直樹さん

気候ネットワークでは
たくさんのボランティアが
一緒に活動しています。
そのボランティアからのコメント！

同志社大学法学部の一回生です。興味がある分野は環境教育や環境税そして、国際環境法です。気候ネットワークでは鶴川フェスタ出展の準備作業や、市民が進める温暖化防止の全体会などに参加させてもらい、様々な経験をすることができました。現在は、小学生向けの環境教育のアクティビティ開発の準備に携わっています。このアクティビティ開発は、子供から地域へという広がりを持った有意義なものになりそうなので、自分が分担したところを頑張って形にしていきたいと思っています。

編集後記

2月16日に行われた京都議定書発効1周年記念のイベントに参加してきました。温暖化防止活動を進めている人々の話を聞き、イベントの最後に代表として宣言文「市民の主張」を読み上げさせていただきました。そこで、改めて市民の取り組みの必要性を感じました。このストリートが「市民の取り組みの広がりにつながればいいなー」と思います。(マッキー)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表: 浅岡美恵 / 副代表: 須田春海 / 事務局長: 田浦健朗

URL: <http://www.kikonet.org/>

「温暖化防止・ストリート」18号
2006年3月1日発行 (隔月1日発行)
編集・DTP: 松本美佳・豊田陽介

京都事務所 (本部)
〒604-8124 京都市中京区高倉通四條上る高倉ビル305
TEL: 075-254-1011 FAX: 075-254-1012
E-mail: kyoto@kikonet.org

東京事務所
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F
TEL: 03-3263-9210 FAX: 03-3263-9463
E-mail: tokyo@kikonet.org